

かわむら **こども** クリニック NEWS

Volume 27 No 8

312号

令和 1年 8月 3日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

こども医学講座—命のお話—

院長

皆さんは「子ども医学講座」を知っていますか。「子ども医学講座」は仙台市医師会で開催している市民医学講座の子ども版です。仙台市医師会・仙台市・仙台市医療センター・仙台市救急医療事業団の四者が共催して、市民向けに展開している医療関連の講座で、歴史も古く開催回数も500回を超えています。市民医学講座は毎月第3木曜日午後には仙台市急患センター2Fホールで開催されています。開催が平日の日中であること、病気に関心がある年齢ということから、参加者のほとんどは高齢者となっています。

仙台市や医師会が開催する講座でありながら、子どもを対象とするものがないのは片手落ちとの提案により、検討の結果「こども医学講座」の開催が決定されました。第1回は2014年12月に「感染症を防ごう～微生物のことを知り、手洗いの仕方を学ぼう～」のテーマで開催されました。講師は東北大学大学院感染制御分野・検査診断学分野教授賀来満夫教授（当時）が務められ、多くの教室員の協力を得て開催されました。講演だけにとどまらず、バイ菌くんと戦いの寸劇、くしゃみロボットでのマスクの効用、実際に菌を顕微鏡で見たり、手洗いで菌がどれくらい減るかの体験もできました。参加者が頭打ちとなってきたこともあり、そろそろ内容変更を考えていたところです。

「感染症を防ごう」を5回開催したので、今年は違ったテーマ「命のお話～知ろう命の大切さ、学ぼう命のつながり～」で開催することになりました。この命の大切さに関しては、時々NEWSでも取り上げてきたので知っている読者も多いはずですが、院長は2007年に小学校4年生体育科授業「育ちゆく体とわたし」を担当し、その後「親子で学ぼう命のつながり」をテーマとしてPTA親子事業、外部講師による授業と継続してきました。授業は第一部の「赤ちゃんはどこからくるの」（保護者・児童）と第二部「悲しい出来事」（保護者のみ）の2部構成で、性教育の入り口として「命の大切さを知る」「体の大切さを知る」、加えて「悲しい出来事を繰り返さないために」をきっかけに、親子のコミュニケーション作りに役立ててもらうことを目的にしています。

いわゆる性教育の取り組みが10年以上続く中、文科省から学校保健総合支援事業に応募したらの誘いがありました。昨年度仙台市教育委員会と連携して、文科

省事業を受託し「近年、性の逸脱行動等の課題が顕在化していることを踏まえ、児童及び生徒が、命の大切さを理解するとともに健康や性に関する正しい知識を習得し、適切に行動することができるよう、発達の段階を踏まえた健康教育や性に関する指導の充実に向けた施策を検討すること」を目的として、小児科医、産婦人科医、助産師、学校長、養護教諭、保護者、市教委からなる仙台市学校保健協議会を立ち上げ、昨年度は外部講師派遣事業、研修会を行いました。さらには昨年10月文科省の推薦により全国学校保健・安全研究大会（鹿児島）において、「親子で学ぼう生命のつながり」による性に関する健康教育」のテーマでの研究発表をしてみました。コメンテーターから「発表者が今まで教員だった中、初の学校医の先生としてご発表いただき、まさにパイオニアです。また、大会に参加された多くの方々が、川村先生のお話に感銘されていました。参加者は500人を超えたと聞いておりますが、会場の雰囲気も和やかに、そして、子供のためにそれぞれの立場で頑張ろうという活力が生まれた大会となったことは、ひとえに先生のご発表のお陰と感謝いたします。」と身に余る評価を受けました。

近年いじめや自死が大きな社会問題として捉えられている中、「命の大切さ」を伝えることの重要性が指摘されています。「こども医学講座」では、小児科医と助産師が実際に小学校と中学校で行なっている授業を講演形式として行うものです。開催にあたり『市民とともに「いのち」を守る』を政策として掲げている郡市長からもメッセージをもらっています。

仙台市医師会としても「こども医学講座」を通して、いじめ・自死防止に少しでも役立たせたいとの思いから全面的に協力しています。

「命の大切さ」は、児童・生徒のみならず、保護者、教職員、医療関係者、福祉関係者、子どもに関係する全ての方々にも役立つものと考えているので、是非皆さん、聴きにきてください。



8月のお知らせ

・臨時休診のお知らせ

24日(土)午後「こども医学講座」
30日(金)31日(土)日本外来小児科学会
年次集会(福岡)のため休診となります。

・栄養育児相談

7・21日(水)13:30～
栄養士担当



・夏季休暇のお知らせ

13日(火)～15日(木)は休診となります。
今月は臨時休診も多く、皆さんにはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

『子ども・子育て支援の都市仙台！ ネウボラを仙台に！！』

読者の広場

先月は6通のメールをいただきました。またFaceBookにもコメントありがありがとうございました。まずは7月18日KHB「手足口病」を見た、青葉区の會○さんからです。「ご無沙汰しております。會○麻○、幸○の母です。昨日、ちょうどテレビで先生を拝見しまして、お忙しいと分かっているのにメールしてしまいました。相変わらずの男前でしたね、もう少しお話を聞いていたいくらいでした(^_^)近いうちに、麻○の日本脳炎第2期?の予防接種に伺いたいと思っています。よろしくお願い致します。それから、幸○は週明けのパドミントン県大会に出場します。少しでもいい報告が出来るといいのですが…地区予選のようにはいかならずです(^_^;)湿度の高い日々が続いております。先生、看護師さん方も菌に負けないように頑張って下さい!では、失礼します!」。

院長の返事は次の通りです。「メールありがとう。お褒めの言葉?、ありがとう。日脳のワクチン待ってます。パドミントン県大会に行くだけでもすごい(^-^)/覚えていますよね。東日本大震災の時の心配のメール。未だに忘れませんよ。そして、こんななんでもないメールが本当は重要なんだと思います。かかりつけの医師になんでもない報告メールを送ることができる患者さんはどれだけいるのでしょうか(笑)報告待ってるよ。」

テレビで見ただけでメールを送る、普通は有り得ませんよね。でも当院では、そんな連携、コミュニケーションを求めています。東日本大震災の時、誰よりも早く中国から心配と激励のメールもらったことは忘れられません。

山形へ転居した浅○さんからFaceBook記事にコメントが寄せられました。「私が働いている病児保育でもものすごいです。お尻もこんなに酷いなんて知らなくて、最初水痘!?!と心配してしまいました(笑)。娘も既に2度もかかり、早く落ち着くと良いなあと思います」。

院長の返事は「テアシクケツ病なんて下品な呼び方してるのは、先生だけだよ(笑)」と。手足口病は西暦奇数年に流行するって?院長が手足口尻(ケツ)病と呼んでるのは?2週間以上もウイルスが排泄されること知ってた?詳しい解説はQRコードを!これを読めば、あなたも手足口病の達人になれます(^-^)/

次は名無しの権兵衛さんからの医療相談です。「8才男の子です。朝体温が37.3度くらいあります。微熱以外の症状は特になく、元気です。夕方37.5 就寝前36.8でした。二日ほど同じような感じですが、風邪なのでしょうかね? 平常時は、36.9度くらいだと思いますが、37.3度程度の熱は、平熱とっていい体温ですか?1週間くらい続いたら受診し血液検査とかした方がいいですか?」

アドレスからかかりつけの患者さんとはわかるので、優しい院長は(笑)名無しの権兵衛さんにもこう返事を書きました。「メールありがとう。まずは熱の基準というものを考えましょう。医学的には熱は37.5℃以上で、38℃未満は微熱と呼びます。うちの子は平熱が36.5℃だから、37.3℃は微熱という人がいます。でも熱の基準は全員同じでなければなりません。また平熱の意味もほとんどなく、ちゃんと平熱を把握している人はません。外来で話をしますが、30km速度制限のところは、軽自動車でもフェラーリでも一緒です。スーパーカーだから50kmでいいというわけにはいきません。熱だけが病気の指標になるわけではありません。必ず熱以外の症状や具合の悪さを伴います。普通に暮らしていれば心配はありません。ご主人が普通に暮らして、元気も食欲があるのに、熱を測るはずはありませんよね。どうしても心配なら血液検査をしますから、連れてきてください。一つだけ、名前ぐらいは伝えてください(笑)」

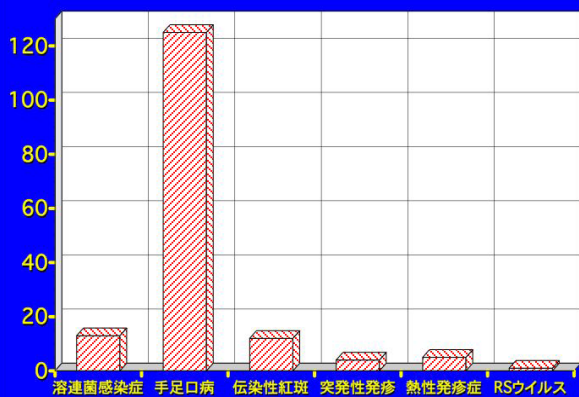
すると早速返事が返ってきました。「川村先生。ご連絡ありがとうございました。また、名前も連絡せず大変失礼致しました。多少熱があっても本人が元気であれば余り気にしないでいいということですね。二日ほど熱っぽかったですが、今は元気なので今後もあまり気にしないようにします。子供の事を、気にしすぎだと自分でも思うのですが、心配性な私は悪い方へ考えてしまいます。川村先生のように親の不安な気持ちに対して、説明してくださる先生にはなかなか出会うことができませんが、この度メールでご相談でき不安も解消されました。ありがとうございました。」これが毎回書く、開業理念「お母さんの不安・心配の解消」の証明ですよ。いつでも相談承ります(笑)



緊急風しん抗体検査事業・第5期風しん定期予防接種(2019年3月15日開始)

対象者は、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性(概ね39~57才) 風しん抗体価陰性を証明できる方。他の方は抗体検査により風しん抗体が不十分な方が定期予防接種の対象となります。抗体検査・予防接種費用は無料で、成人であっても当院で実施可能です。(平成34年3月末日まで) パートナーだけでなく、周りにいる男性を誘って、社会を守るために検査と予防接種を受けてもらいましょう!!

7月の感染症の集計



1ヶ月前にはわずかしかなかった手足口病が、一気に125人と大流行しすぎて、他の感染症が目立たないだけです。右上のQRコードで解説を。インフルエンザ以外では、かなり珍しいグラフになってしまいました。溶連菌感染症は13人と多く、一時下火になった伝染性紅斑も再び増加しています。グラフに示したようにRSウイルスが確認されていますが、他にパラインフルエンザウイルスが見つかっています。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は800人を越えるお母さんが登録し利用しています。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。下のQRコードから是非登録をお願いします。

その他の情報発信としてFacebookページ、YouTubeにも取り組んでいます。最新情報はFBをどうぞ。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合はkodomo-clinic.or.jpをドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Facebook

編集後記

一気に暑くなって、そのせいとは限りませんが手足口病大流行です。

同じことを書きますが、「命の大切さ」を伝える性教育を初めて10年を経過して、活動が認められ講演も増えました。「こども医学講座」は画期的な取り組みです。命の大切を伝えるのは、本当は幼児期から家庭の役割です。そんなヒントを掴むためにも年齢にかかわらずお子さんをお持ちの方に是非聞いてもらいたい内容です。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』 『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。!!